

中学校第2学年 社会科 学習指導案

期 日 平成28年10月6日(木) 第5校時
場 所 山鹿市立鶴城中学校 社会科教室
指導者 教諭 佐伯 綱義

1 単元名

「世界から見た日本の人口」(東京書籍)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野内容(2)のイ、(内容の取り扱い)の(イ)を受けて設定したものであり、世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、国内の人口分布、過疎・過密問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観させることをねらいとしている。世界の人口は現在、約70億人であり、更に世界の人口は増加し続け、2050年には90億人を超える勢いである。また、発展途上国における人口増加率は顕著であり、これは第二次世界大戦後、医療技術の進歩や食料事情の改善により、死亡率が低下し多産多死から多産少死へと変化したからである。しかし、先進工業国においては人口密度は高いが少産少死へと変化し、人口(自然)増加率は停滞している状況である。日本では、自然増加率が減少し始めており、100年後には人口が現在の半分以下まで減少すると予想される低い出生率で、少子化が進み、老年人口が約22%以上にもなる高齢社会を迎えている。また、三大都市圏に人口が集中する過密地域や人口が流失していく農村や山間部、離島などの過疎地域もあり、それぞれ大きな課題を抱えている。そこで「少子化」という題材は、先進国の少子化の背景を理解させ、「少子化は悪い」という一面的な視点だけではなく「少子化は悪くはない」という別の視点からも捉えさせて少子化による課題などを考えさせたい。また、少子化の影響で人口減少していく生徒の住む地域を見直すよい機会である。

これらのことから、本単元において「少子化」の学習を行うことは、批判的思考力という資質・能力の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「豊かな心と確かな学力を兼ね備え 夢に向かって逞しく生きぬく生徒の育成」及び目指す生徒像の「進んで学び確かな学力を持つ生徒」の実現にもつながるものであると捉える。

(2) 系統観

第2学年 (9月)	第2学年 (9月)	第2学年 (9月)	第2学年(10月) 本時	第3学年 (1月)
「世界から見た日本の自然環境」 世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。	「世界から見た日本の資源・エネルギーと産業」 世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。	「世界と日本の結びつき」 世界的視野から日本と世界との交通・通信網の発達の様子や物流を理解させるとともに、国内の交通・通信網の整備状況を取り上げ、日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を大観させる。	「世界から見た日本の人口」 世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、国内の人口分布、過疎・過密問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観させる。	「国民生活と福祉」 国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。

第2学年では世界と比べた日本の地域的特色を捉えることができるよう、上記の系統観で4つの特色をつかませる。人口については、第3学年の社会保障制度で再度少子化の問題について考えさせたい。

(3) 生徒観

○熊本県学力調査から観点別の思考・判断・表現力が県平均より低い。また、英語科以外は県学力調査の主に「知識」に関する問題の定着率も低い。つまり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得ができていない。また、表現力に課題が見られ、主張・根拠・理由付けという三角ロジックを活用した表現力が定着していない。

○生徒は周囲の意見に流されやすく常識をそのまま受容する傾向にある。つまり常識を一度疑ったり、相手の意見を批判したりする「これからの社会に求められる資質・能力」における「批判的思考力」が身に付いているとは言い難い。

(4) 指導観

○人口における基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、生徒が習得しやすいように、フラッシュカードの色を重要度ごと三色に分け板書する。

○生徒の興味・関心や資料の読み取り技能を高めるためにICTを活用する。

○生徒の言語活動を充実させるために、主張・根拠・理由付けという三角ロジックを活用する。

学びを引き出す

学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

- ①日本の人口が自然減少していく中で生徒に「本当に少子化は悪いのか？」という学習課題を与え、「批判的思考力」の育成を目指すようにする。
- ②「少子化は悪い、悪くはない」という両方の立場から生徒個人で考え、地域に目を向けつつ自分の意見を持たせるようにする。

学びを振り返る

思考過程の可視化と
学びの振り返り

- ③生徒の最初の意見とディベート後の意見を比較できるようなワークシート等を用い、表現力、考え方や意見の変容が見とれるようにする。
- ④振り返りの場面において、学習内容を振り返るだけでなく、考え方や資質・能力についての自己評価も行うことで「批判的思考力」を意識できるようにする。

学びを支える

学びのUD化とICT
の活用

- ⑤生徒が学習内容だけでなく、学習活動の方法まで把握できるよう、生徒相互及び教師と相談しやすい雰囲気づくりに努めたり、ICT活用により共有化を図ったりする。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	世界的視野から日本の人口と人口密度，少子高齢化の課題を理解させるとともに，国内の人口分布，過疎・過密問題を取り上げ，日本の人口に関する特色を大観することができる。		
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
①世界的視野や日本全体の視野から人口を基に世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，捉えようとしている。	①世界と比べた日本の地域的特色を世界的視野や日本全体の視野から見た人口を基に多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	①世界と比べた日本の地域的特色に関する様々な資料から，世界と比べた日本の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。	①世界と比べた日本の地域的特色について，世界的視野や日本全体の視野から見た人口を理解し，その知識を身につけている。

4 指導・評価の計画(5時間扱い 本時5/5)

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 世界の人口の推移から，発展途上国と先進国の人口の分布などの特色と課題について考える。	【資料活用の技能】①：発表・ワークシート
二	1	2 世界と比べた日本の人口の特色と少子化がおこる背景について考える。	【社会的な思考・判断・表現】①：発表・ワークシート
三	1	3 日本の過疎・過密地域は課題について，身近な地域の例を通して考える。	【社会的な思考・判断・表現】①：発表・ワークシート
四	1	4 「日本にとって少子化は本当に悪いのか」という課題について，資料を活用して肯定側・否定側の二つの立場から考える。	<p>【社会的な思考・判断・表現】①：ワークシート</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>①日本の人口が自然減少していく中で書籍を通じて生徒に「本当に少子化は悪いのか？」という学習課題について考えさせる。</p> <p>②少子化は悪い，悪くはないという両方の立場から生徒個人で考え，地域に目を向けつつ自分の意見を持たせるようにする。</p>
	1 本時	5 ディベート的な討論を通して，少子化によっておこる問題を理解し，日本をよりよい社会にするにはどうすべきかを考える。	<p>【社会的な思考・判断・表現】①：発表・ワークシート</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>③生徒の最初の意見と3-3ディベート後の意見を比較できるようなワークシート等を用い，考え方や表現力，意見の変容が見とれるようにする。</p> <p>④振り返りの場面において，学習内容を振り返るだけでなく，考え方や資質・能力についての自己評価も行うことで「批判的思考力」を意識できるようにする。</p> <p>【学びを支える】</p> <p>⑤生徒が学習内容だけでなく，学習活動の方法まで把握できるよう，生徒相互及び教師と相談しやすい雰囲気づくりに努めたり，ICT活用により共有化を図ったりする。</p>

5 本時の学習

(1) 目標

◎3-3ディベートを通して、少子化における良い点と課題点を確実に習得することができる。

○肯定側と否定側の両方の立場から主張・根拠・理由付けを使って自分の意見を表現することができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>(1) 前時の復習をする。</p> <p>(2) 本時とディベートの流れを確認する。</p>	<p>○前時までの内容と課題を確認する。</p> <p>○ディベートの流れを板書で示し、いつでも生徒が確認できるようにする。</p> <p>徹底指導 (ポイント)</p> <p>○人口に関する知識をおさえる。</p> <p>【視点3】学びを支える</p> <p>⑤学習活動の方法を把握できるように、ICT活用により共有化を図る。</p>	ICT 流れの紙
展開 35分	<p>2 自分の意見を確認する。</p> <p>3 ディベートを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>肯定側・否定側の意見発表 (2')</p> <p>作戦タイム (1')</p> <p>肯定側・否定側の反論 (2')</p> <p>最終弁論 (1')</p> <p>判定側による判定と感想 (1')</p> </div> <p>4 最終的な自分の意見を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【言語活動】 (設定の意図)</p> <p>肯定側・否定側の両側の立場で意見を伝え合ったり、最終意見を考えたりする活動を通して、批判的思考力を育成する。</p> </div>	<p>○個人で、肯定側と否定側の意見の見直しをさせる。</p> <p>能動型学習 (ポイント)</p> <p>○肯定側・否定側には、主張・根拠・理由付けを明確にして意見を伝えさせる。また、判定側には、判定理由を明確にして勝敗を付けさせる。</p> <p>○1回のディベートは7分間とし、3回繰り返す。</p> <p>○学習課題に対して、肯定か否定か、最終的な意見を主張・根拠・理由付けの形式でワークシートに記述させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価：思考・判断・表現 (発表・ワークシート)</p> <p>B基準 根拠・理由付けを明確にして、自分の主張を書いている。</p> </div> <p>A基準 B基準に加えて、両側の意見を比較しながら、少子化の課題や利点を踏まえて書いている。</p> <p>< B基準に達していない生徒への手だて ></p> <p>○ディベートを通して、何を感じたかを個別に聞き、意思決定を促す。</p> <p>【視点2】学びを振り返る</p> <p>③ワークシート等を用い、考え方や表現力、意見の変容が見とれるようにする。</p> <p>④資質・能力についての自己評価も行うことで批判的思考力を意識できるようにする。</p>	ワークシート
整理 10分	<p>5 本時の学習を振り返る。</p>		

